

備える 3.11から

第65回 ボランティアから見た震災2年

被災地のニーズ知ろう



愛知ボランティアセンター 久田光政代表

ひさだ・みつまさ 1956年生まれ。愛知県瀬戸市出身。東海中学・高校(名古屋市東区)の教諭をする傍ら、東日本大震災発生後の2011年3月17日に被災者を支援するため愛知ボランティアセンター(名古屋市熱田区)を設立。阪神大震災で保護者を亡くした子どもにも奨学金を贈る会を発足。東日本大震災でも同じ取り組みをしている。

被災地のニーズを知るには、被災地へ行って話を聞くことが必要だ。被災地へ行って話を聞くことは、被災地の人たちと直接話をすることができ、被災地の現状を知ることができる。また、被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。

名古屋の2人に聞く

東日本大震災から2年。被災地で活動したボランティアから見た震災とは何だったのか。その教訓は南海トラフの地震にどう生かせるのか。名古屋市を拠点に東北の被災地で長期支援を続ける「レスキューストックヤード」の栗田暢之代表理事(48)と「愛知ボランティアセンター」の久田光政代表(56)に聞いた。(中村禎一郎)



レスキューストックヤード 栗田暢之代表理事

くじた・のぶゆき 1964年、岐阜県穂積町(現瑞穂市)生まれ。学校法人「同朋学園」に勤務していた1995年、阪神大震災の被災地に学生と駆けつけたのをきっかけに、「震災から学ぶボランティアネットワーク」を設立。その後、災害ボランティアを手がけるNPO法人「レスキューストックヤード」(名古屋市東区)に発展させた。東日本大震災では宮城県七ヶ浜町を拠点に支援活動を行っている。

被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。

「助けられ上手」になろう

市民運動のように息長く

被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。

人を配置する仕組み必要

被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。被災地へ物資を送る際には、被災地のニーズを知ることが大切だ。